

# 平成31年度 学校自己評価システムシート ( 県立川越女子高等学校 )

目指す学校像	「学力の向上」と「人格の陶冶」を柱に組織的教育活動を展開して進学実績の向上を図るとともに、生徒が主体的に学ぶ「質の高い授業」の創造に全力で取り組む学校
--------	---

重点目標	1 <学力の向上> 生徒の学習意欲及び進路意識を喚起し、自学自習力の定着・維持に努め、真の学力の向上を図る。 2 <人格の陶冶> 「品格のある、志の高い生徒」「自主・自律の精神に満ちた自立した生徒」を育成する。 3 <開かれた学校づくり> 関係機関との連携を更に深め、学校情報の積極的な発信に努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 日 現 在 )			実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<b>■現状</b> ・2学期制、土曜授業、行事の精選等により授業時間確保に努めている。 ・授業相互参観・先進校訪問・予備校研修参加等、教員が常に学ぶ姿勢をもっており、質の高い授業が展開されている。 ・進路指導部と各学年等との連携を通じた様々な取組により、生徒一人一人の進路意識の向上に努めている。 ・SSH事業や県の指定事業等を有効活用している。 <b>■課題</b> ・生徒自身の取組状況を改善する。 ・ワンランク上を目指す進路意識の啓発を行う。 ・新大学入試をはじめとする高大接続改革に対し、組織的に具体的な対応を行う。 ・SSH、県指定の事業等を効果的に活用し、学校全体で事業を推進、実施する。	1 より計画的、自主的な学習とともに主体的な学びをさらに推進する。	①自学自習を支援するために、シラバスの配布、学習OT実施、スタディサポートや補講、集中学習、読書指導、施設、資料等の充実などによりサポートする。 ②教員授業相互参観や教科指導力向上セミナーへの参加を通じて、授業の質を向上させる。	①進路実現のための自学自習体制の実現に必要なサポートができたか。 ②教員の授業力向上のための取り組みの支援が年間を通じて計画的・効果的に実施できたか。					
		2 保護者と連携し、国公立大学、難関私立大学、医学部を目指す進路意識の啓発を継続する。	①保護者のための進路勉強会・大学見学会を開催し、進路意識の啓発の一助とする。 ②模試の分析会等を通して生徒の学力状況を把握し指導にあたる。 ③研究会等で進路情報を提供する。 ④難関大個別指導体制を充実させる。 ⑤生徒向けガイダンスを充実させ、外部検討会への参加、情報収集を行い、新入試にむけて準備をする。	①進路勉強会参加人数が8割を超えたか。 ②③研修会・志願校検討会などを通じて進路情報の共有化が図れたか。また、これらの方策により生徒の進路実現が達成されたか。 ④進路実現が達成できたか、また、国公立100名以上、難関大学80名以上の合格を達成できたか ⑤新入試対策の具体的な方策を講ずることができたか。					
		3 SSH事業、県指定事業内容について、生徒への積極的な情報提供により参加を啓発するとともに、学校全体で事業を推進・実施する。	①7つのSSH事業について情報提供・説明会を行い、全校でSSH行事に積極的に参加していく体制をつくる。 ②SSHニュースの定期発行とSSHホームページの迅速な更新を行う。	①SSH事業への参加者が昨年(918名)より増加したか。 ②滞りなくSSHニュースを発行し、速やかなホームページの更新が行えたか。					
2	<b>■現状</b> ・多くの生徒が多様な活動に自主的かつ積極的に取り組み、充実した高校生活を送っている。 ・教育相談体制が整っている。 <b>■課題</b> ・将来、あらゆる分野で活躍するリーダーを育成する。 ・部活動指導方針を踏まえつつ、部活動の充実を図る。 ・支援の必要な生徒に対し、適時・適切に対応する。	1 外部講師の活用や海外プログラムへの参加を積極的に進める。	①卒業生による懇談会やガイダンスを実施し、生徒の進路意識を高める。 ②大学や研究機関、企業などから講師を招き出張講義を年6回開催する。 ③英語プレゼンテーション学習会や海外研修への積極的な参加を促す。	①生徒の進路意識向上に繋がったか。 ②魅力的な内容の出張講義を開催し、生徒の知的好奇心を刺激できたか。 ③昨年度以上の参加者数を得られたか。					
		2 計画的・効果的な部活動の実施により、豊かな人間関係の構築を図る。	①生徒各自の立場、責任に基づく判断力・行動力を育てる。 ②計画的で効果的な特別活動を行う。 ③支援の必要な生徒へ適時・適切な対応ができる体制を専門機関の利用や教員研修を通して構築する。	①生徒各自がそれぞれの立場を自覚し、責任の下で行動する姿勢を身につけられたか。 ②より計画的で効果的な活動を実施できたか。 ③学年・生徒指導部・教育相談担当者等の連携により、支援の必要な生徒への対応を行えたか。					
		3 保護者、学校、外部機関等と連携しながら生徒支援を行う。	①PTA、後援会、体育文化振興会等を通じて、適切な生徒支援を行う。	①各種行事・部活動が円滑に行われたか。					
3	<b>■現状</b> SSH事業を生かし、小学校、中学校、大学等と連携を深め、特色ある教育活動を積極的に発信している。 <b>■課題</b> ・本校の良さをさらに情報発信する。 ・地域への貢献を継続する。	1 本校の特色ある教育活動を広報・公開する。特に部活動のページの更新を積極的に行う。	①年5回の学校説明会や土曜日公開授業等により、広報を積極的に行う。 ②校内各部署の連携を強め、学校全体でホームページの更新を行う。	①参加者の増加、アンケートの肯定的意見が多く得られたか。 ②HPの更新回数が昨年度(239回)より増加できたか。					
		2 市内の小中学校への学習支援等を行い地域に貢献する。	・近隣の小・中学生対象の補充学習支援ボランティアについて、小中学校との協働性に留意しながら教務部等で企画立案、実施する。	・本校生、小・中学生双方にとって有意義な活動となり、地域へ貢献できたか。					